

ロボット産業 活性化事業 セミナー

平成30年度

定員150名

申込締切

平成31年
2月27日(水)

事前登録制
参加費無料

都産技研では、中小企業のロボット産業への参入を促し、ロボット産業を活性化することを目的に「ロボット産業活性化事業」を推進しています。人と共存しながら作業する「サービスロボット」や「協働ロボット」において、安全性の確保は非常に重要です。そこで、平成30年度のロボット産業活性化セミナーでは、サービスロボット/協働ロボットの標準化として、ロボットの活用や運用に必要な安全技術に関する方法論や、開発事例、第三者認証のプロセス、国際・国内規格適合への対策方法を主題とし、技術開発に携わる研究機関、認証機関、ロボット開発メーカー、都産技研の各機関の取り組みを紹介します。

サービスロボット/協働ロボットの安全と規格適合

平成31年

2.28

[木]

13:00~17:00

会場

地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター 本部

・ゆりかもめ「テレコムセンター」駅前 ・りんかい線「東京テレポート」駅下車 徒歩15分[朝夕無料送迎バスあり3分] ・都営バス海01テレコムセンター駅前下車

お申し込み

① インターネットでのお申し込み(24時間受付) ② FAXでのお申し込み(24時間受付)

<http://www.iri-tokyo.jp/seminar/>

FAX.03-5530-2400

下記の申込書に必要事項をご記入のうえ、そのまま送信してください。

お名前	フリガナ		
ご住所	<input type="checkbox"/> 勤務先 <input type="checkbox"/> ご自宅 〒		
	TEL	FAX	
勤務先	所属部署・役職		
E-mail	@		
企業規模	該当箇所に、○をお願いします。 中小企業 一般企業 その他 (資本金:) (従業員数:) (業種:)		
都産技研からの情報提供をご希望される方は、以下の項目にもご記入ください。			
<input type="checkbox"/> メールニュース配信(毎週平日1~2回配信)*無料 <input type="checkbox"/> 広報誌「TIRI NEWS」(毎月1回発行)*無料			

【個人情報の取り扱いについて】 本申込用紙にご記入いただいた企業・個人等の情報は当該業務以外の目的のために使用いたしません。

スケジュール

13:00~13:05 挨拶

13:05~13:55 **【基調講演】**

「ロボット介護機器におけるリスク低減の考え方」

(独)労働安全衛生総合研究所 電気安全研究グループ 部長 池田 博康 氏

概要

介護、福祉用途のロボットの開発者は、リスクアセスメントに基づく安全設計を施しますが、そのリスク低減には限界があるため、残留するリスクは機器使用時にユーザが引き継いで対応せざるを得ません。ここでは、開発者がユーザに期待する残留リスク低減が、実際の機器使用時に達成されているかを評価する手法を提案し、包括的なリスク低減の考え方を紹介します。

略歴

労働省産業安全研究所(現労働安全衛生総合研究所)入所後、自動機械の安全化、フェールセーフセンサ、産業用ロボットシステムの協働運転などに関する研究に従事。近年、機能安全による制御システムや生活支援・介護用途のロボット機器の安全性評価を担当。



13:55~14:40 **【特別講演】**

「JETのロボット関連サービス」 (一財)電気安全環境研究所 ロボット・HEMS機器評価センター コンセプト・プロセス評価グループ マネージャー 成田 和人 氏

概要

2015年秋、(一財)電気安全環境研究所(JET)は、来たるロボットとの共生社会の安全・安心をサポートすることを目的として、ロボットの適合性評価・認証のサービスを開始しました。50年以上の実績を有する家電等の電気製品に対する安全試験の豊富な経験をベースに、ISO/IECのロボット関連規格の国際標準化活動への参画から入手する最先端の情報に着想を得ながら、JETが提供するロボット関連サービスの概要について紹介いたします。

略歴

15年半の電気製品メーカー勤務を経て、試験/認証機関において電気製品の適合性試験・評価業務に10年以上従事。ロボット関連サービスの開始以来、ロボットの適合性評価を主体としたコンセプト・プロセス評価グループのマネージャーを務める。電気製品分野では、低圧系統内機器の絶縁協調の規格を扱うIEC/TC109国際エキスパート/国内委員会幹事補佐、計測器・ラボ用機器等の規格を扱うIEC/TC66国内委員会の幹事として活動している。



14:40~14:55 休憩(名刺交換)

14:55~15:40 **【事例紹介】**

「協働ロボットURの導入ステップと国内事例」

Universal Robots A/S リージョナルテクニカルサポートエンジニア 西部 慎一 氏

概要

ユニバーサルロボットは協働ロボット世界シェア約60%、累計販売台数27,000台を超えるリーディングカンパニーです。協働ロボットとは何か、また初めて協働ロボットを導入するにあたって検討すべき事、日本における導入事例をご紹介します。

略歴

名古屋工業大学大学院 情報工学専攻修士、ロボットアームの強化学習によるトルク制御アルゴリズムについて研究。2011年~住友重機械工業(株)、産業用ロボット用精密減速機の設計開発。2015年~ABB(株)、自動車工場向け塗装ロボットラインのプロジェクトマネジメント。インドや中国などの海外大型案件でライン設計からロボットチューニング、現場監督までトータルサポート。2017年~Universal Robots A/S、北東アジア地域においてテクニカルサポートエンジニアとして代理店、Sierの技術支援や協働ロボット認知向上のマーケティング活動などに従事。



15:40~16:25 **【特別講演】**

「協働ロボット及び産業用サービスロボットの国際安全規格」 テュフ ラインランド ジャパン株式会社 プロジェクトエンジニア/産業機器安全審査官 深見 正教 氏

概要

昨今ロボットと呼ばれる機械装置が散見されますが、国際安全規格上で定義されているロボットを基準にすると、ロボットではない機械装置も見られるようになりました。産業用ロボットをはじめとしたロボットに分類されない機械装置、組み込まれる部品/ユニット、又、それらを海外に輸出する際にはどうしたら良いのか、海外輸出を考えている方や、ロボットを導入するユーザーの方々に向けての講演です。

略歴

東京エレクトロン東北(株):半導体製造装置用ロボットに従事。シュナイダーエレクトリックジャパン(株):無停電電源装置に従事。テュフラインランドジャパン(株):従来型の産業用ロボットを始め、協働ロボットのISO10218-1及びISO/TS15066、サービスロボットのISO13482の安全評価及び認証に従事。



16:25~17:00 **都産技研の取組紹介**

(地独)東京都立産業技術研究センター 開発本部

プロジェクト事業推進部 ロボット開発セクター 副主任研究員 村上 真之/森田 裕介